

I 調査概要

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、市民の男女平等に対する意識や実態を把握し、第二次東大和市男女共同参画推進計画見直しの資料とすることを目的とし実施した。

2 調査の設計

- (1) 調査地域：東大和市全域
- (2) 調査対象：市内在住の満20歳以上90歳未満の男女 1,000 人
- (3) 抽出方法：住民基本台帳による無作為抽出
- (4) 調査方法：郵送配付一郵送回収
- (5) 調査時期：平成25年8月16日（金）～8月30日（金）

3 調査の内容

- (1) 家庭生活
- (2) 子育て・教育
- (3) 介護
- (4) ワーク・ライフ・バランス
- (5) 仕事
- (6) 社会参加・地域参加
- (7) 人権
- (8) 男女共同参画の推進

4 回収結果

	全体			
	女性	男性	性別不明	
配布数	1,000	502	498	
有効回収数	397	226	162	9
有効回収率	39.7%	45.0%	32.5%	

※配付数の男女差については、男女比率を同数を条件としたが、他の条件（町丁別、年齢別）との兼ね合いにより抽出結果で、誤差がでたものである。

5 報告書の見方

- (1) 回答は各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（%）で表示した。
- (2) 百分率は少数第二位を四捨五入しているため、比率の合計が100%にならない場合がある。
- (3) 複数回答できる設問は、回答比率の合計が100%を超える場合がある。
- (4) 全体には属性無回答を含むため、男女別の属性別計の数と一致しない。
- (5) 作図・表の都合上、設問や回答の選択肢及び数値を省略している場合がある。

【標本誤差について】

調査結果の比率から母集団（20歳以上90歳未満の市民全体）の傾向を推測するには、統計上の誤差（標本誤差）を考慮する必要がある。この標本誤差は回答者数と各設問の回答の率から、以下の式により求められる。

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} + \frac{p(1-p)}{n}}$$

N = 母集団

n = 比率算出の基数（サンプル数）

p = 回答の比率

各回答比率における標本誤差早見表

回答の比率 (p) 基数 (n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
397	±3.01%	±4.02%	±4.60%	±4.92%	±5.02%
226	±3.99%	±5.32%	±6.10%	±6.52%	±6.65%
162	±4.71%	±6.29%	±7.20%	±7.70%	±7.86%
100	±6.00%	±8.00%	±9.17%	±9.80%	±10.00%
50	±8.49%	±11.31%	±12.96%	±13.86%	±14.14%

(注) 表は $\frac{N-n}{N-1} \cong 1$ として算出した。

例えば、< 女の子は女らしく、男の子は男らしく育てるのがよい >という回答をした人は、全体（ $n=397$ ）の58.4%であった。この場合の抽出に伴う標本誤差は早見表より「±4.92%」であるから、東大和市の20歳以上80歳未満の人で< 女の子は女らしく、男の子は男らしく育てるのがよい >と考える人は、標本誤差を補正すると53.48%から63.32%の間にあるということになる。